

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第 2660 地区)

WEEKLY BULLETIN

No.9

## 東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日  
例 会 日 毎週月曜日 12:30~  
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪3F  
事 務 局 東大阪市小阪本町1丁目5-14  
〒577-0802 小阪本町ロイヤルハイツ405号  
TEL: 06-6753-8823  
FAX: 06-6753-8826  
E-mail: jahcrc@gmail.com



会 長 岩 橋 竜 介  
会 長 ノ ミ ニ 尾 崎 元  
副 会 長 佐 井 義 昌  
幹 事 岩 崎 史 郎  
会 報 委 員 長 百 濟 洋 一

## ”Serve to Change Lives”

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

2021~2022 年度 国際ロータリー会長 シェカール・メータ

第 2167 回例会 令和 3 年 11 月 15 日 (月曜日) 第 9 号

本日の例会 11月15日(月) 第3例会

### 2021-22 年度 ガバナー公式訪問

2660 地区ガバナー 吉川 秀隆様  
地区幹事 井戸 剛様  
地区幹事 近藤 康之様

- ソング 『 奉仕の理想 』
- ゲスト 米山奨学生 ウ・ジョンフン様

本日の献立 フランス魚料理

次回の例会 11月29日(月) 第4例会

- 卓話 三菱総合研究所 石黒正揮氏  
「アフターコロナ時代のデジタル社会と  
サイバーセキュリティ」担当:宮田照男

前回の例会 11月15日(月) 第2例会

会長挨拶 会長 岩橋竜介

本日は、ハンガーゼロからジェローム・カセバさんにお越しいただきました。急な依頼にも関わらず、快く引き受けてくださり、心から御礼申し上げます。後ほど、卓話をよろしく申し上げます。

さて、やっと秋らしくなりました。この季節になるといつも思うことがあります。それは、道を歩いていると、ふと顔を上げて周りを見渡すのです。どこからともなく、甘い芳香が漂ってくる…そう金木犀です。

見事な花をつけるわけでもなく、派手な姿でもありません。しかし、下を向いて歩いている人の顔を上

げさせる魅力のある花です。普段はどこにあるのかなどわからないのですが、この時期になると、ここにも、あそこにも金木犀があった、と気付きます。

翻って、私たちのクラブ…ずいぶん小さくなってしまいました。しかし、ロータリークラブとして、良い活動は地道に続けています。財団や米山奨学会への寄付や取り組みは、大きなクラブに引けを取りません。良い親睦を深めています。社会奉仕や国際奉仕もコツコツ続けてきました。私たちは小さいけれどいい香りを放つクラブではないかと思えます。私たちが地道にしていることが、どのようにかはわかりませんが、他のクラブや地域の人々に伝わり、『東大阪中央ロータリークラブって小さいけど、いい活動をしていますよね…』と気づいてもらい、やがて他のクラブが、また社会の人々が振り返って顔を上げるようなクラブになりたい…金木犀を見ながら考えさせられた秋のお話しです。

さて、来週は吉川ガバナーの公式訪問です。私たちにとって大切なゲストであり、ロータリーのパートナーです。会員お一人おひとりが、ホストとして歓迎していただきたいと思えます。何卒よろしく申し上げます。

## 幹事報告 幹事 岩崎 史郎

- ① 本日例会終了後、11月度定例理事会を5階「フリーズ」にて開催します。  
理事役員の皆様にはよろしくお願い致します
- ② ガバナー公式訪問は、来週11月15日にこちらの「志摩の間」で開催されます。御出席よろしくお願い致します。
- ③ 第2回情報集会は、11月25日（木）開催予定となっています。18:30よりシェラトン都ホテル大阪3階「四川」です。
- ④ 12月3日（金）は地区大会です。  
大阪国際会議場にて13:00開会です。ご出席よろしくお願い致します

## 出席報告 芝池 委員

本日の会員数	19名
本日の出席者数	13名
本日の出席規定適用免除会員	6名
本日の出席率	92.85%
10月18日の修正出席率	92.85%

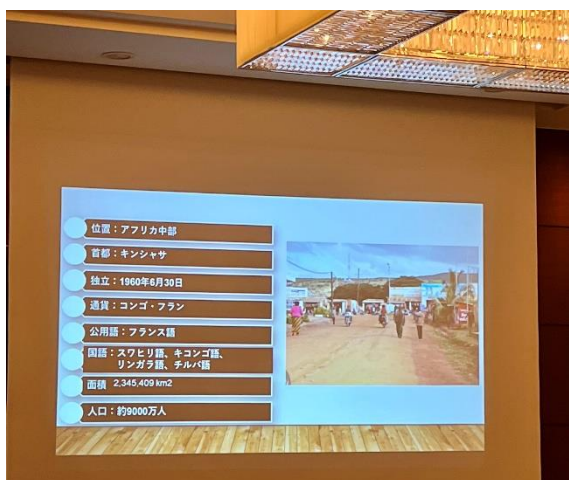
## 二コニコ箱報告 SAA 名村 美紀

尾崎 元 コンゴ民主共和国出身のジェローム・カセバ様、本日の卓話より  
よろしくお願い致します。

## 卓話担当 担当 岩橋竜介

### 「ゼロになるまで コンゴ民主共和国の現状」

ジェローム・カセバ氏



以下は、先週のジェローム・カセバ氏の卓話の内容と同じではありませんが、ハンガーゼロのサイトより、カセバ氏が携わる活動の報告を転載します。



農業に取り組む人々の成果を現地で見聞きして喜ぶ  
HOLCのジェロームスタッフ（中央、青シャツ）

2021年6月8日～7月10日にかけてHOLC支援地のプウェ、カレミ、ルブンバシ、キンシャサを訪問しました。コンゴ民主共和国においても新型コロナは猛威を振るっており、様々な制限があつて訪問は容易ではありませんでしたが、HOLC（ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ）のスタッフも地元のパートナーも共に守られて訪問を終えることができました。リーダーのパメラと支援地の人々は家族を支えるために懸命に働いています。

支援中の6つのコミュニティでは武装グループによる襲撃もなく、農作業が順調に行われて、今年はピーナッツを90kg入り計42袋収穫することができました。農業が家族の食料確保に大きな役割を果たしています。グループの人々の働き方にとっても満足している地方政府のリーダーが、私たちHOLCに、同じ考え方をプウェの他の地域にも広めるようにすすめました。さらに3つのコミュニティが参加する予定で、人々に「なぜこのグループに加わりたいのですか」と尋ねました。「彼らの暮らしが良くなっているので、わたしたちもそうなりたいのです」という答えが返ってきました。他の村の人たちがパメラのグループの変化に気づいて、彼らのようにになりたいと思うようになることは、プウェだけではなくコンゴ全体に良い影響を与えるはずで、私たちにとって大きな励みとなります。



## 【家畜の飼育】

ヤギを所有しているコミュニティはルブアのみでしたが、他の3コミュニティも参加して現在計28頭のヤギを飼育しています。

### カレミ

農業再開で村人と国内避難民が結束

ピグミー族とバントゥー族の間で対立が続いていた2019年に私たちの話を聞いてくれた村長と今回会い、ピグミーとバントゥーの国内避難民の両方でできるだけ早く農業活動を始めるように勧めました。村の集会で私たちは、平和と和解なしに持続可能な開発や復興について語ることはできないことを話しました。そして考え方の変革について説明し、すべての国内避難民と村人に、お互いに戦うのではなく、平和についてもっと考えるようにすすめました。その結果いくつかの提案がなされました。

- 農業活動をできるだけ早く開始する
- 家畜(小動物)の飼育

国内避難民と村人は、これが彼らの発展と自立を可能にする唯一の方法であり、一緒に働き始めてお互いに話し合うことで分かり合い、結束することができるだろうと話しました。集会の最後には、2021年9月から農業活動を開始することが決定されました。カレミでは9月から3月の雨季にはピーナッツやメイズ、キャッサバなどを育てることができます。私たちは彼らを励まし、9月にプロジェクトを始めるために再訪問すると約束しました。



孤児院の給食プログラム(キンシャサ)

キンシャサ、ルブンバシ

食料価格急騰で給食支援が役割を果たす

新型コロナ感染拡大中にもかかわらず、キンシャサとルブンバシでの給食プログラムは順調に行われています。孤児たちは全員守られて、これまでの支援をみんなとても喜んでいました。コンゴ国内の食料価格がほぼ2倍になっている中で、孤児院ではハンガーゼロが食料を支援してくれたことを感謝していました。私た

ちの支援は孤児たちが安全な場所で守られて、ストリートチルドレンになるのを防ぐ役割を果たしています。

地方政府からの期待

昨年プウエの地方政府がHOLCを含む現地NGOと協力することを決定した時、私はコンゴにいなかったので、今回プウエの訪問中にプウエの地方政府のトップに招かれて私たちの活動に満足していることを伝えられました。プウエの地方政府は、HOLCが様々な村の人々に、他者を頼るのではなく自立することを継続して教えてトレーニングすることを望んでいます。地元のリーダーである彼は私たちの活動を知っているので、地域の他の場所でも同じことを進めるように頼みました。彼は「農業、漁業、家畜に焦点を当てることによって人々が食料安全保障の問題に取り組み、自給自足できるようになることを望んでいる」と私に話し、地方政府がHOLCに対して以下の支援をすると述べました。

- プウエ領土内で訓練のために移動する許可書
- プウエの中のセキュリティと保護
- プウエから他の村への移手段(車両)

彼は、地元のNGOと協力して国民が直面している問題に実際に対応する方法を考えているリーダーの1人です。説明会で私は、地方政府は国内避難民と村人を彼らの農業活動に戻すようにすべきだと話しました。ほとんどの国内避難民と村人は、条件が良ければ以前の活動に戻ることができるでしょう。



HOLCのスタッフ(後列)とカレミのピグミー族

## 今後の課題

コンゴのような国では、集団での活動によって生計を立て人々の結束を図ることは、国内避難民とコンゴの農村コミュニティの回復力を高め彼らの村への帰還を促進する上でとても重要です。そのためには誰を支援するかについて地方政府と十分に話し合うことが必要です。食料や現金を支援することは、人々がそれに依存し続け、将来的に深刻な食料不足に直面するようになる可能性があります。

地方政府は、人々に地域の結束を促すような農業や漁業や活動に従事するよう奨励すべきです。

2019年に支援をはじめ、国内避難民が現在暮らしているルフンクウェ村では、過去2年間部族間での争いや紛争はなく、村に戻った人々の間には平和があることを知って私たちは満足しています。2021年9月から農業活動への道を開こうとしているカレミのピグミー族とバントウ族のコミュニティも結束し、持続可能な結果を生み出すことでしょう。

プウェトで新しく形成されたコミュニティは組織に対する理解が深まり、集会や貯蓄や社会的支援などが適切に行われています。また女性が集会に出席して地域社会の変革に加担しているのを見て励まされました。プウェトの一部のコミュニティでは女性のメンバーは男性より活発で声高でした。このため地域の人々に、女性が地域社会に十分貢献できるように最大限の時間と機会を与えるようにすすめました。



プウェト・チャンフグ村の女性たち

最後になりましたが、道路事情が悪いためプウェトへのバスはなくなり、橋が雨で流されたので今後の訪問はランドクルーザーを借りなければ困難になります。



ジェローム・カセバ氏のLINEスタンプ